



勇壮な獅子舞 健康を祈願

左上の写真①は、大謝名区内にある十字路です。普段は静かな生活道路ですが、旧暦八月十五日の十五夜(ジユウグヤ)には勇壮な獅子舞のムラマーイのコースとなります。

左下の写真②は、1994(平成6)年、旧暦八月十五日の十五夜に行われた写真①と同じ場所での獅子舞の様子です。

この大謝名の獅子舞は二百年以上の伝統を持つと伝えられており「けんか獅子」「男獅子」として知られています。獅子は一頭で獅子の中に若い二人が入り、鐘と太鼓に合わせて素朴で勇壮に踊るのが特徴です。ドラや太鼓を打ち鳴ら



▲①大謝名区内の十字路



▲②ムラマーイで演じられる獅子舞(1994年)

しながら道筋をねり歩き、四方に向かつて二回、中央で三回囃みつく動作でもって吠え、足踏みや技を入れ、それらの踊りを二回繰り返します。

四方へ吠えることで区内から魔物を追い出します。「獅子舞を見たり、触れたりすると病気が治り、子どもが丈夫に育つ」との言い伝えがあり、かつては首里や浦添から子ども連れの見物客が押し掛けたといえます。

獅子舞には、魔物払いの要素が濃く、大謝名には次のような歌があります。

「獅子の按司加那志 部落ぬ守護神  
悪魔災難や 払て給り」

このムラマーイの後に公民館広場において獅子舞が行われています。戦前はこのムラマーイの後、ムラヤー(現・公民館)広場で、角力大会が披露され、力自慢の若者が大勢集って技を競い合いました。

大謝名の獅子は、大戦で焼失し、絶えていましたが、区民の伝統獅子を復活させる声により、1976(昭和51)年8月に33年ぶりに復活しました。みなさんの地域で大切にしている行事はなんでしょうか？

【問合せ】市立博物館 ☎870-19317



今回は、約三五〇年前にできた宜野湾間切よりも古くから存在する野嵩地域の遺跡を紹介したいと思います。

琉球王府は、一六七一年に当時の浦添間切から一〇箇村、中城間切から二箇村、北谷間切から一箇村を分離し、そこに真志喜村を新たに設けた一四箇村で宜野湾間切を新設しました。この一四箇村に含まれる野嵩村は中城間切から分離されたことから、宜野湾間切ができる前から人々が生活していた村であったことが分かります。

では、野嵩地域にはいつ頃から人々が住んでいたのでしょうか。その疑問を解くためのヒントが遺跡にはあります。野嵩地域には複数の遺跡がありますが、その中でも主な遺跡を見てみましょう。

野嵩第一公園より東側にあり、沖縄自動車道北中城インターチェンジへ向かう途中の丘陵に所在する野嵩ウガンヌカタ遺跡は、縄文時代晩期頃(約二五〇〇年前)の住居跡と思われる堀り込み跡や土器、石器などが出土したことから当時の集落であったことが考えられています。

また、普天間飛行場内の野嵩ゲート

側に所在する野嵩タマタ原遺跡は、グスク時代(約六〇〇年前)の農耕に関わる堀り込み跡が列状に並んで確認されており、市内でも貴重な遺跡となっています。

二つの遺跡は時代こそ違いますが、当時の人々が野嵩地域に住んで生活していた証拠であり、その遺跡を調べることによって昔の人々が何らかの活動をしていたことが分かります。

今回紹介した遺跡は過去に発掘調査を行っていますが、もしかすると、まだ発見されていない遺跡が人知れず眠っている可能性もあります。そこで、お墓や住宅建設などの開発工事を計画する際には、その場所に遺跡などが残っていないかを確認させてもらっているの、ぜひ文化課までご一報ください。

【問合せ】文化課 ☎893-4430



▲列状に並ぶ堀り込み跡(野嵩タマタ遺跡)